

# 栗原の稲作通信

令和6年 第6号 令和6年7月12日発行

宮城県栗原農業改良普及センター  
宮城県米づくり推進栗原地方本部  
電話番号 0228-22-9404

## ○今後の栽培管理のポイント○

1. 幼穂形成期に入っているほ場では、品種や生育量に合わせた追肥を行きましょう。
2. 用水が確保できる水田では、中干し後に「間断かん水」、用水の確保が難しい水田では、中干し後に「飽水管理（ほうすいかんり）」を行きましょう。
3. 斑点米カメムシ類の本田への侵入を防ぐため、水田畦畔の草刈りは出穂10日前までに終わらせましょう。管内の水稻の出穂前後の草刈り自粛期間は7月25日から8月23日まで。【管内の平年の出穂期は8月2日（過去5年平均）】。

## 1. 気象経過

○6月下旬（6/21～6/30）の気温は平年と比較して、最低気温が平年を下回った6月第6半旬を除いて、高く推移しました。6月下旬の降水量は平年を下回りました。合計日照時間は平年を上回りました。

○7月上旬（7/1～7/10）の気温は平年と比較して、高く推移しました。7月第2半旬にまとまった降雨があり、日照時間は少なくなりました。

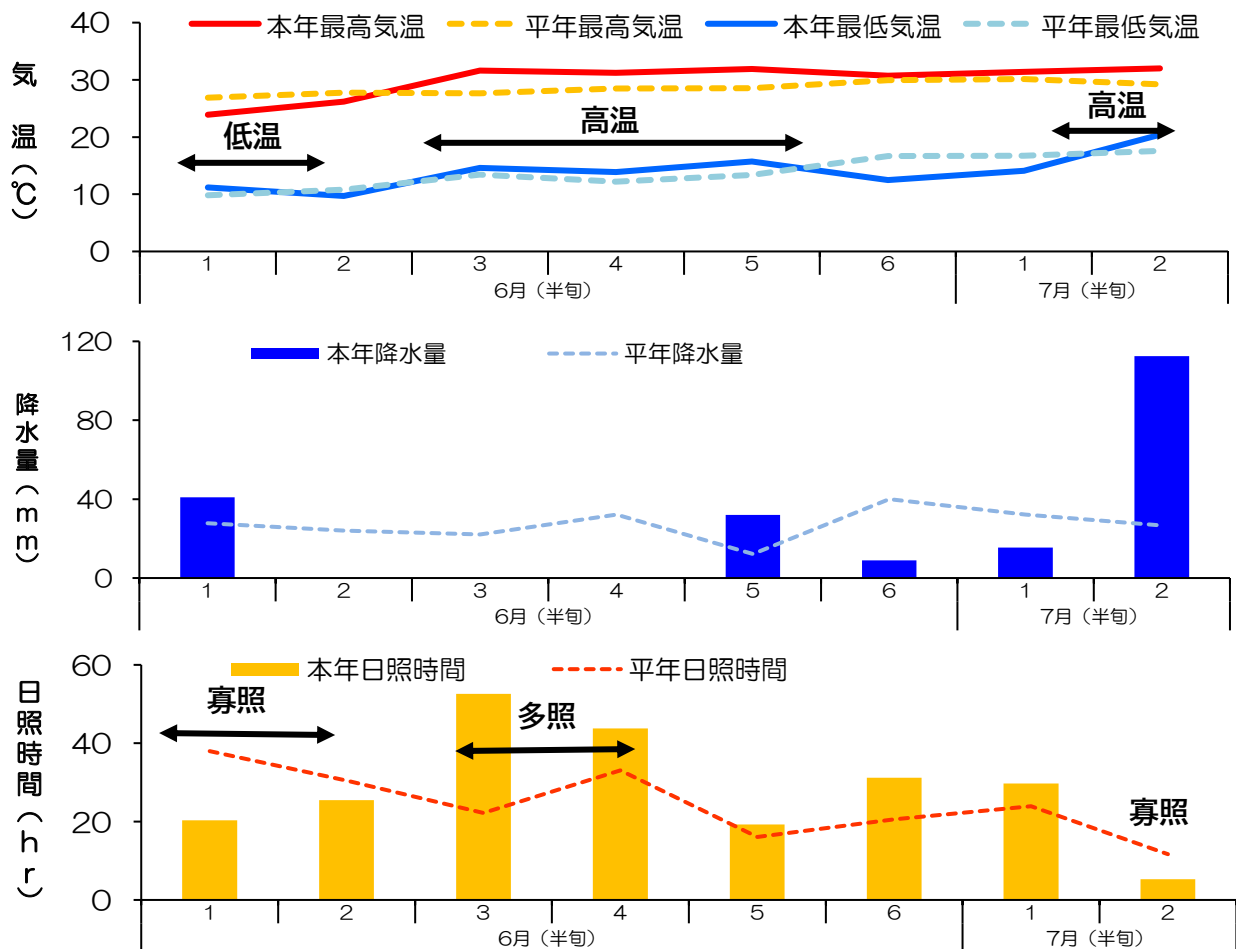


図1 6、7月の気象経過（築館アメダス） ※平年（点線）：令和元年～令和5年の平均値

## 2. 生育状況（7月10日現在）

### 1) 移植水稻

○県内における「ひとめぼれ」の生育状況（県内 18 地点平均）については、草丈は 66.0cm（平年比104%）、茎数は507本（平年比 96%）、葉数は11.3枚（平年差 +0.4枚）、葉色（GM 値）は 39.5（平年差 -1.1）となっており、草丈はやや長く、茎数は平年よりやや少なく、葉数はやや多くなっています。葉色は平年と比べ、やや淡くなっています（表1、ひとめぼれ 県平均）。

○当管内の「ひとめぼれ」は、若柳では平年と比べ、草丈はやや長く、茎数は少なくなっています。葉色は平年並みになっています（表1、ひとめぼれ 若柳）。また、一迫では平年と比べ、草丈はやや短く、茎数・葉数ともに少なくなっています。葉色は平年と比較して淡くなっています（表1、ひとめぼれ 一迫）。

○幼穂長については、当管内の「ひとめぼれ」の生育調査ほど 1mm を超えていることから、幼穂形成始期は7月10日頃となっており、減数分裂期は7月第5半旬頃（7/21 から7/25 頃）になると予想されます。

表1 7月10日 生育調査結果（移植水稻）

品種	地区	田植日			草丈(cm)			茎数(本/m <sup>2</sup> )			葉数(枚)			葉色(GM値)			幼穂長(mm)		
		本年	前年差	平年差	本年	(前年比)	(平年比)	本年	(前年比)	(平年比)	本年	(前年差)	(平年差)	本年	前年差	平年差	本年	(前年差)	(平年差)
ひとめぼれ	若柳	5/21	同日	1日遅	68.2	104	106	551	98	82	11.0	+0.4	+0.4	42.4	+4.2	-0.5	1.0	-0.1	-0.2
ひとめぼれ	一迫	5/10	2日早	1日早	57.7	90	95	402	89	92	10.7	-1.0	-0.4	34.5	-2.2	-5.0	1.8	-2.3	-1.1
ひとめぼれ	県平均	5/12	同日	同日	66.0	99	104	507	101	96	11.3	0.0	+0.4	39.5	+1.0	-1.1	-	-	-
つや姫	築館	5/23	5日遅	1日遅	63.3	102	108	432	(89)	(88)	10.6	+0.6	+0.1	41.6	-3.0	-2.7	0.5	+0.5	+0.5
萌えみのり	金成	5/18	10日遅	6日遅	65.1	92	99	521	114	105	10.4	+0.2	-0.4	49.4	+5.7	+2.7	1.0	-10	-2.7
だて正夢	古試	5/10	同日	同日	72.2	100	106	557	93	108	11.0	-0.1	+0.5	38.9	-0.7	-1.5	1.0	-0.5	-0.1
金のいぶき	古試	5/10	同日	-	67.3	96	-	655	105	-	11.1	-0.4	-	33.9	-2.4	-	0.9	-0.1	-

注1：平年値は過去5年間（令和元～5年）の平均値。「ひとめぼれ一迫」は過去4年間（令和2～5年）の平均値。

注2：「つや姫 築館」は本年から栽植密度が変更されており参考値（令和5年 15.3 株/m<sup>2</sup>、令和6年 12.2 株/m<sup>2</sup>）。

注3：「ひとめぼれ 県平均」は県内各普及センター及び古川農業試験場における 18 地点の生育調査結果の平均。

注4：「だて正夢」、「金のいぶき」は古川農業試験場の生育調査結果。

### 2) 乾田直播水稻

○つきあかりの出穂30日前における目標生育量は、草丈は47～55cm、茎数は370～420本/m<sup>2</sup>、葉色は 40 となっており（※1）、比較すると、草丈が長く、茎数は多く、葉色は淡くなっています。（※1 農研機構中央農業研究センター「つきあかり」栽培マニュアルより）

表2 7月10日 生育調査結果（直播水稻）

播種様式	品種	地区	播種日		草丈(cm)		茎数(本/m <sup>2</sup> )		葉数(枚)		葉色(GM値)		幼穂長(mm)	
			本年	前年差	本年	(前年比)	本年	(前年比)	本年	前年差	本年	前年差	本年	前年差
乾田直播 グレーンドリル 播種	つきあかり	志波姫	4/8	5日早	71.6	114	463	76	10.7	+2.4	34.1	-5.1	3.6	+3.6

注1：令和6年から品種を「つきあかり」に変更（令和5年は「ひとめぼれ」）。

注2：前年差・比は「ひとめぼれ」との参考比較。

### 3. 今後の栽培管理のポイント

#### 1) 中干し後の水管理

- 7月7日からの降雨により管内のダムの貯水率は高くなったものの、今後の天候によっては十分な農業用水を確保できなくなる可能性も考えられます。
- 出穂期前後は稲体が最も水を必要とする時期です。出穂後30日頃までは、限られた用水で「飽水管理（ほうすいかんり）」を行い、土壌を湿った状態に保ちましょう。

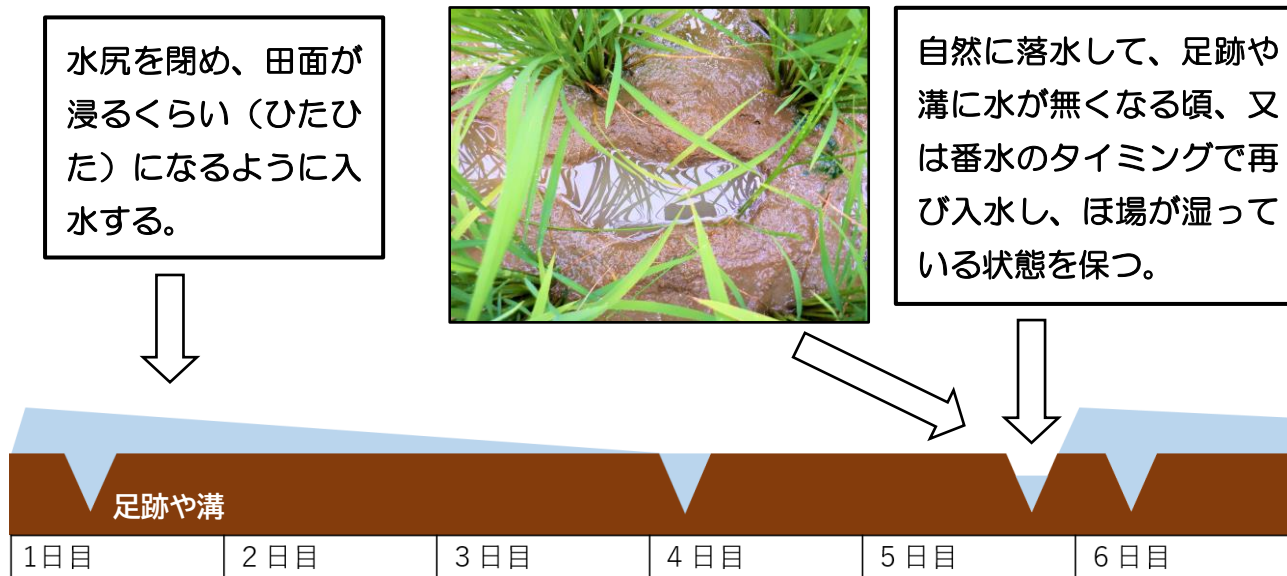
ほうすいかんり  
～飽水管理とは～

従来の水管理方法に比べ、限られた用水で実施可能となります。また、間断かん水に比べ、より土壌を酸化的に保ち、根の活性が高まる管理法です。

- ✓実施時期：有効茎数確保後から出穂後 30 日頃まで。
- ✓入水の目安：水田の足跡に水がなくなったら入水し、水尻を閉めたまま自然落水させる。
- ✓効果：夜間に稲体の温度が下がるため、**湛水管理よりも白未熟粒の発生を抑制することが期待できます。**

湛水管理では夜間に水温が下がりづらいため、稲体の温度も下がらず、光合成で作られた養分を呼吸で消費してしまいます。⇒**白未熟粒の発生を助長**

重要：入水が的確に行えるように、水田の溝切りは必ず行います。



※① 日数はあくまで目安です。地域やほ場の実情にあった水管理をお願いします。  
 図2 ほ場における飽水管理（ほうすいかんり）の方法

**【地域で話し合い、限りある用水を有効に活用できるように工夫しましょう】**

- 幼穂形成期（幼穂長1～2 mm）から減数分裂期（幼穂長3～12 cm）にかけて、最低気温が17℃以下の日が続く場合は深水管理を行い、幼穂を保護しましょう。

## 2) 品種や生育量に合わせた追肥を行いましょ。

- 近年は出穂後の高温により、白未熟粒が発生し、品質低下することが多くなりました。追肥は、穂揃期の葉色低下を防ぎ、白未熟粒の発生を軽減などの効果が期待できます。
- ほ場ごとに幼穂長を確認して、生育ステージを把握しましょう(表3)。また、幼穂形成期や減数分裂期における目標生育量の範囲内から下回るほ場では追肥を行いましょ(表4)。
- 有機入り肥料を追肥で使う場合は、肥効が現れるまで時間がかかるので、早めに施用しましょ。

表3 幼穂形成期と減数分裂期の目安

生育ステージ	幼穂長	葉耳間長	出穂前日数
幼穂形成期	1~2mm	—	25~20日
減数分裂期	30~120mm	-10~0cm	15~10日

表4 追肥時期の目標生育量と追肥量の目安 \*生育量の範囲内から下回る場合に追肥が可能

品 種	幼穂形成期 (幼穂長 1~2mm)			減数分裂期 (幼穂長 3~12cm)		
	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉色 (葉緑素計)	追肥量 (窒素成分) (/10a)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉色 (葉緑素計)	追肥量 (窒素成分) (/10a)
ひとめぼれ	470~530	38~40	1kg	450~500	35~37	1kg
ササニシキ	—	—	(しない)	550~580	32~34	1~1.5kg
つや姫	550~580	35~37	2kg	—	—	(しない)

### ★だて正夢の追肥量 (窒素成分量/10 a)

- 基本は「**減数分裂期2 kg**」
- 茎数が不足する場合は、  
「幼穂形成期 1 kg + 減数分裂期 1 kg」
- だて正夢は、ひとめぼれ等の他品種より茎数が少なく、葉色が濃くなる傾向にあります。生育量が表の目安を超えている場合を除いて追肥を行いましょ。

表5 だて正夢の生育量の目安

項目	幼穂形成期	減数分裂期
草丈 (cm)	64~70	76~82
茎数 (本/m <sup>2</sup> )	390~460	380~420
葉色 (葉緑素計)	40~42	37~39

### ★金のいぶきの追肥量 (窒素成分量/10 a)

- 基本は  
「**幼穂形成期 1 kg + 減数分裂期 1 kg**」
- 金のいぶきの葉色は、ひとめぼれと比較して淡く推移し、幼穂形成期から減数分裂期にかけて、著しく低下します。安定した収量を確保するために、追肥を実施しましょ。

表6 金のいぶきの生育量の目安

項目	幼穂形成期	減数分裂期
草丈 (cm)	65~70	80~85
茎数 (本/m <sup>2</sup> )	570~620	490~540
葉色 (葉緑素計)	33~35	30~32

### 3) 高温登熟対策

- 出穂後 30 日頃までは、「飽水管理（ほうすいかんり）」を行い、走り水等により土壌を常に湿潤状態に保ちましょう。
- 落水時期は、出穂後 30 日以降を目安としましょう。
- 籾数過多や登熟期の窒素栄養不足により白未熟粒の発生が助長されるので、ほ場毎の地力に応じた適正な施肥管理に努め、必要に応じて適期に追肥を行いましょう。
- 収穫適期は、出穂後の積算気温と併せて、籾の黄化程度や籾水分を確認して判断しましょう。
- 刈遅れにならないよう収穫機や乾燥調製施設等の清掃・点検等を早めに行いましょう。

## 4. 病虫害防除

### 病虫害防除所 発生予報第 5 号 （宮城県病虫害防除所：7/8 発行）

～葉いもち、紋枯病の発生に注意、草刈りを出穂 10 日前までに終えましょう～

\*発生量および発生時期は、発生予報第 5 号（宮城県病虫害防除所）に基づいています。

- ▶斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ）……………発生量「平年並」  
発生時期（第 1 世代成虫発生盛期）「7 月第 3 半旬（7/11～7/15）早い」の予報  
○畦畔の草刈りや牧草の刈取りは、出穂の 10 日前までには終わらせましょう。出穂直前の草刈りは、斑点米カメムシを水田に追い込むことになるので避けましょう。
- 栗原市の水稻の出穂前後の草刈り自粛期間 7 月 25 日（木）から 8 月 23 日（金）まで（栗原市水稻カメムシ被害抑制対策本部）
- 斑点米カメムシ類の防除は、穂揃期とその 7～10 日後の 2 回防除を徹底しましょう。
- ▶葉いもち……………発生量「平年並」  
発生時期（発生開始期）「7 月第 3 半旬（7/11～7/15）平年並」の予報  
○7 月第 2 半旬は「高温寡照多雨」で経過したため発生に注意が必要です。ほ場を入念に見回り、葉いもちの病斑を確認したら直ちに防除しましょう。
- 特に、萌えみのり、金のいぶきなどのいもち病に弱い品種や、予防防除を行っていない直播栽培などでは注意しましょう。
- ▶紋枯病……………発生量「やや多」  
○前年に紋枯病が多発したほ場では、穂揃期に茎葉散布剤を散布しましょう。
- 高温多湿で発生しやすく、向こう 1 か月の平均気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されているため、注意が必要です。
- ▶稲こうじ病……………発生量「やや少」  
○穂ばらみ期に低温で、降雨日数が多いと発生しやすくなります。
- 銅剤による防除適期は、出穂 10～20 日前です。

◎お知らせ！

■農薬危害防止運動実施中 実施期間 6 月 1 日～8 月 31 日

農薬の使用に当たっては、必ずラベルに記載された適用病虫害、使用方法、最終有効年限などを確認して、定められた方法を厳守しましょう。

最新の農薬登録情報は、農林水産消費安全技術センターのホームページで確認することができます。